

実施日：9月29日（6校時）	
領 域：特別活動	
取組名：ゆるスポーツ体験	
対 象：3年生	実施場所：視聴覚室
ア ねらい （特別活動） ① より多くの人が参加しやすいスポーツの良さを知り、仲間と関わり合いながら楽しむことができる。 ② ゆるスポーツの持つ良さや意義を考え、ワークショップでの対話や協働作業を通して、新たなスポーツを創造することができる。 ③ 自分から進んでスポーツ・運動に関わろうとする態度を持つことができる。 （人権） ① 運動の得意不得意や身体能力にかかわらず、共にスポーツを楽しもうという気持ちをもつ。 ② ルールを工夫することで、だれでも楽しめるスポーツがあることを知る。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 5時間のうちの5時間目を実施 【全5時間の学習の流れ】 ＜1時間目＞ ・ゆるスポーツの説明 ・ゆるスポーツ体験 （ゾンビサッカー、うんちリレー、まゆげリフト） ・振り返り ＜2時間目＞ ・ゆるスポーツ体験 （100cm走、いもむしラグビー） ・振り返り ＜3時間目＞ ・ゆるスポーツ作り みんなで楽しめる、ゆるスポーツを考える ＜4時間目＞ ・作ったゆるスポーツの発表 ＜5時間目＞ ・ゆるスポーツ体験 自分たちが作ったゆるスポーツをやってみる。 ・これまでの学習の振り返り 【本時の指導の流れ】 ※詳細は指導プラン参照 ① レクチャー 6分 ころがしドッチグループの説明を聞く ② ゆるスポーツ体験（ころがしドッチ） 12分 ③ 話し合いタイム 10分	

グループで振り返り チームで話し合い 負けたチームは自分たちの有利になるようルールを変える。 ④ ゆるスポーツ体験（改良版ころがしドッチ） 12分 ⑤ 全体振り返り 感想をシェアする 5分 ※兵庫教育大学との特別支援教育の推進にかかわる連携協力校研究授業実践内より提供
ウ 連携先：全職員、家庭
エ 連携にむけての取組 ・ 今回の授業の内容について職員間で交流する。 ・ 学級便りを通じて、今回の授業の概要を紹介する。
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 ・ 授業前と授業後に授業のねらいや授業の流れについて、外部講師と丁寧な打ち合わせを行う。
カ 評価の方法 ・ 児童アンケート ・ 話し合いのようすやゲーム中の様子を観察
キ 成果 (アンケート結果と観察から) ・ ゆるスポーツ体験およびゆるスポーツ作りに前向きに取り組み、意見を言ったり、話し合ったりすることに対して意欲的に参加していた児童が多くいたことが考えられる。 ・ 特別活動のねらい①と③については概ね達成できたのではないかな。 ・ 「誰もが共に学び、共に育つ」や「運動の持つ楽しさや面白さ」などといった観点で体育授業の進め方を確認することができた。
ク 課題 (アンケート結果と観察から) ・ 話し合いがうまく進まなかったグループがあった。考えるのが難しかったり、話し合いが得意ではないといったことから、活動が停滞していたのではないかと考える。 ・ 話し合いの経験が少なく、意見の相違がある状態からズレをどう縮めていくかということに対する慣れや、自分で考えたものはそのまま採用してほしいといった思い、複数人で一つの物を作り上げる際に生じる、合わせたり、削ったりといった修正に対する意識が3年生という発達段階において、困難であったことが考えられる。 ・ 能力を高めることは大切であるが、生涯スポーツの視点やだれでも参加できることを念頭において授業づくりをすすめる必要がある。「だれでも参加できる」ということはどの教科においても必要である。